

令和3年度 学校評価 自己評価書

あま市立秋竹小学校

1 総 括

(1) 教育目標（学校経営案より）

学習指導要領の基本理念をふまえ、児童のすぐれた個性を伸ばし、個を生かす教育活動を通して、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成を図る。

<めざす児童像>

- | | |
|-------|-----------------------|
| ○ 強く | 自他の生命を大切にし、たくましく生き抜く子 |
| ○ 正しく | 自ら学び、正しく判断できる子 |
| ○ 明るく | 礼儀正しく、心豊かで思いやりの心をもった子 |

(2) 本年度の重点努力目標

ア 確かな学力の育成に向けて

- ・体験的な学習、問題解決的な学習を重視するとともに、ICT 機器の活用方法を工夫し、児童が自ら課題をもって主体的に学習を進め、他者との関わり合いにより、得た意見を基に自分の考えを含め、表現することができるよう授業の充実を図る。
- ・教師が指導の改善を図るとともに、児童自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるような学習評価を工夫する。

イ 豊かな心の育成に向けて

- ・「考え、議論する道德」に向けた道德科の授業の充実を図る。
- ・異年齢集団「なかま」活動により、思いやりの心や感謝の心の育成を図る。
- ・教育活動全体を通して児童の道德性を深め、心のつながりを大切にされた学級・学校づくりを図る。

ウ 健康・安全教育の充実に向けて

- ・体育的行事を計画的に実施するとともに、心身の健康課題に対する指導に取り組み、家庭の協力を得ながら、児童の基本的な生活習慣の育成に努める。
- ・定期的な安全点検以外にも、遊具の安全な使用方法や廊下歩行の安全指導など、児童が安心して生活できる学校環境づくりに努める。また、避難訓練を随時行い、災害時に身を守るための適切な行動ができるように指導する。

エ 家庭・地域との連携

- ・学校運営協議会の場や、学校 HP、学校通信等を通して、家庭や地域に本校の教育活動について積極的に発信する。
- ・読み聞かせボランティア「メルポケ」と連携し、「読書の時間」の充実を図るなど、地域の人的・物的資源を積極的に活用し、教育活動のさらなる充実を図る。

2 自己評価の実施体制

(1) 調査時期 令和3年12月10日～12月17日

(2) 調査項目 別紙アンケート参照

(3) 調査対象 有効回答者数／対象者数

・児童 141名／全143名

・保護者 109名／全114名

・教職員 17名／17名

計267名

3 調査結果[資料として添付]

別紙アンケート結果参照

4 考 察【児童・保護者・教職員の総括的考察】

(1) 全体的に見て特徴的なのは、教職員においては達成状況が A（できた）の項目は13項目中10項目であり、児童の評価は、11項目中8項目の達成状況が A である。保護者においては、達成状況の A が13項目中9項目であり、教職員、児童、保護者の中で教職員が一番 A 評価の割合が高い。より保護者や子どもの声に耳を傾ける必要がある。

(2) 児童においては、昨年度に比べ「本を読むことが好きである」が減少した。新型コロナウイルス感染予防のため、読み聞かせボランティア「メルポケ」の方に本の読み聞かせをしていただく機会が減ったことも影響しているが、朝の読書の時間の確実な確保をしたり、教師や子どもたちによる読み聞かせの機会を作ったりするなどして、本が好きな子どもが育つよう改善していかななくてはならないと考える。

(3) 児童アンケート「困ったことがあったとき、相談できる人がいる」「学校は楽しい」の項目で、共に達成状況は A（できた）ではあるが、昨年度と比べ肯定的な回答が減少している。それだけ人間関係に不安を抱え、心に悩みをもっている子が増えてきている

ということがわかる。日頃から、保護者と連携して、子どもたちの心の変化を見逃さないようにし、児童に声掛けをしつつ、より良い関係づくりに努めていきたい。

- (3) 「学校での学習や生活を通して、児童が成長していると思う」の項目における達成状況は、教師、保護者共に90パーセントを超えA評価であるのに対し、児童は79パーセントという結果であった。周りの大人から見ると成長しているのに、子どもたちにはその実感がもてていないということである。子どもたちにとっての成長とはどのようなことかを明確にし、子どもたち自身が満足感や充実感が味わえるように支援しながら日々の教育活動に取り組ませていきたい。
- (4) コミュニティスクールとしての評価は、「よくあてはまる」が27パーセントと低かった。今年度は、プール清掃や運動場の除草作業、読み聞かせ等、保護者や地域の方々と協働して教育活動を行うことができたのだが、そのことを保護者にもっとわかりやすく、伝えていく必要性を感じた。

5 成果と課題

<成果>

- (1) 保護者アンケート「わが子は学習がわかり、基礎的な学力が身に付いている」の評価が上がっている。外部講師を招き、学級づくり、授業づくりの校内研修の機会を増やしてきたことで、教師が一人一人を大切にしたいきめ細かな指導を心がけ、指導方法を工夫しながら授業実践をしてきた成果と考える。
- (2) コロナ渦において、保護者に授業を参観していただけない状況が続いた。そのため、日々の授業の様子、外部講師を招聘して行った授業や教師の研修の様子を、HPや各種たよりを通して発信し、保護者に安心していただけるように努めた。保護者からは、「学校の様子がよくわかる」という評価をいただいた。また、学校運営協議会においても、授業参観をしていただき、本校の取り組みについてご理解ご支援をいただけるようになった。

<課題>

- (1) 児童アンケート「学校は楽しい」について、肯定的な評価が91パーセントから84パーセントに減少してしまったことを重く受け止める必要がある。登校しぶりをしている児童、保健室登校を必要としている児童等、全職員で共通理解をしつつ対応し、すべての児童が「学校は楽しい」と答えられるような学校をめざしていくことが大切である。
- (2) 「自分からあいさつができる」の項目における達成状況について、教師は41パーセント、保護者は73パーセント、児童は87パーセントがA(できた)と回答しており、差が出ている。教師と児童の間において、「あいさつができる」の捉えが異なっているように思われる。今後、あいさつの大切さを子どもたちに伝えつつ、その取り組みについて、教職員で検討していくことが課題である。

6 改善策

- (1) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
子どもたち一人一人の実態を把握し、指導方法を工夫・改善することにさらに力を注いでいきたい。「学び合い」について、専門的な知識をもった外部講師を招聘し、その理念や指導法を学んだり、校内授業研究を計画的に行い、教師同士が互いの授業から学び合ったりすることで、教師の授業力向上に努めていく。
- (2) 生徒指導体勢の充実
生活アンケートやQU等の実施及びその活用を図るとともに、個別の教育相談を継続し、子どもの悩みを早期に発見できるように努める。また、児童個々の悩みや問題については、毎週金曜日に全教職員で情報共有をする。さらに、場合によっては、外部機関との連携も行う。
- (3) 心の教育の充実
子どもたちが、自分の良いところを見つけられ、自信がもてるようにとの願いのもと、エンカウンターを学校全体で取り入れる。そして、自尊感情、自己有用感が育まれるようにしていきたい。
- (4) 保護者や地域の皆様との連携を図るための情報発信
学校だより、学年通信、HP、学校運営協議会の場等を活かし、地域・家庭に向け、日々の教育活動を家庭や地域に積極的に発信していきたい。
さらなる情報発信に努めたい。
- (5) あいさつのとびかう学校づくり
温かい言葉のキャッチボールが自然にできるようになる取り組みを行っていき、それらを通して基本的な生活習慣や心のつながりが身に付くよう支援する。